

総合スポーツゾーンに係る管理施設設計について

柵

実施設計における柵の考え方は、現況を踏まえ、景観面への配慮、立入防止機能確保、コスト削減の観点から、以下の通りとする。

<設置箇所>

公園区域の明示を目的に、立入防止機能の必要性がある箇所に柵等を設置する。

<設置タイプ>

- ・景観を重視し、開放感を与えるエリアは、意匠性に配慮した低い柵、植樹帯（H=150 嵩上げ）や土塁で代替し、右記2タイプの柵は利用しない。この場合、特に園路や歩道沿いに人が潜める場所が生じないように十分に配慮すること。
- ・人通りが多く、景観を重視すべきエリアは、現況で使用されており、景観性が高い鋼製縦格子タイプとする。
- ・人通りが少なく、景観配慮の必要性が低いエリアや、樹林帯があり、柵による境界明示の必要性が低いエリアでは、低コストで設置可能な鋼製メッシュタイプとする。

<高さ>

- ・現況、多くの柵が高さ1.2m、1.5mであることを踏まえ、景観調和の観点から、柵の高さは1.2mを基本とする。ただし、調整池外周や特に立入防止機能が求められるエリア外周は、高さ1.8mとする。

<色>

- ・「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」（平成16年3月、国土交通省）を踏まえ、方針を決定する。
- ・「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」には、「鋼材を使用する場合、ダークブラウン、グレーベージュ、ダークグレーを基本とする。」「既に設置してある他の施設や防護柵を設置する橋梁等の構造物との関係で個別に色彩を選定する場合は、それらの色彩との融和性を考慮し選定を行うことが必要となる。」と示されている。
- ・既設柵では黒が多く使用されており、既設柵との統一を低コスト、短期間に図るため、柵の色は、現況で最も多く使用されている黒とする。

表一柵比較表

柵タイプ	鋼製縦格子タイプ	鋼製メッシュタイプ
		
規格	H=1.2* @2.0, H=1.5* @2.0	H=1.2* @2.0, H=1.5* @2.0
支柱	□60×30×2.3	□40×40×1.6
縦格子	□19×19×1.6	—
格子ピッチ	125mm	154/144×50×3.6mm, 145×50×3.6/4.5mm
下地+塗装	メッキ処理鋼板+ポリエステル樹脂粉体塗装	メッキ処理鋼板+ポリエステル樹脂粉体塗装
価格	11,000~14,000 円/m	5,000~6,000 円/m
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼材に強度があるため縦格子ピッチを広げられる。（@120→@150） ・塗装色の選定が多様である。 ・損傷部からの腐食性に弱い。 ・近年の実績からほぼフリーメンテナンスである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインがどのメーカーも一様である ・衝撃に弱い。 ・景観的に主要な場所での使用に課題がある。 ・近年の実績からほぼフリーメンテナンスである。
評価	耐久性に優れデザインの選定の幅も広く使いやすく、現況でも同規格（H1.5、1.2）が設置されている。	機能を満足し、安価な材料であるが、公園の景観性に劣るため、設置場所は選定する必要がある。

注) 支柱、縦格子、格子ピッチ、下地+塗装の仕様は、メーカー仕様による

<参考製品>

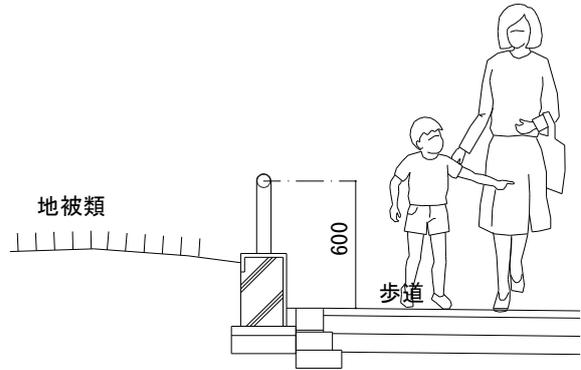
上記を踏まえ、景観を重視し、開放感を与えるエリアにおける整備イメージ、鋼製縦格子タイプ、鋼製メッシュタイプの参考図を次に示す。

◇ 道路に面して植栽帯があり、公園としての風格を重んじる区間

東西園路及び西エントランス沿いの公園としての風格を重んじる区間は、土留めを兼ねた構造物上に低い人止め柵（合計でH≒600）を設ける。



イメージパース



横断面図

◇ 道路に面して植栽帯がある区間

植栽帯が人止めとして機能することから、外柵は設置しない。植栽帯は路面よりH≒15cmかさ上げし、人の立入り防止に寄与する植物（低木や地被類）を選定する。



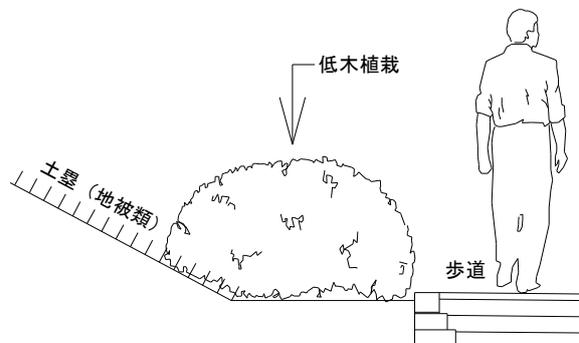
現況写真

◇ 道路に面して土塁がある区間

土塁が人止めとして機能することから、外柵は設置しない。土塁は浸食防止のため、地被類で覆うとともに高木や低木を織り交ぜた整備を心がける。



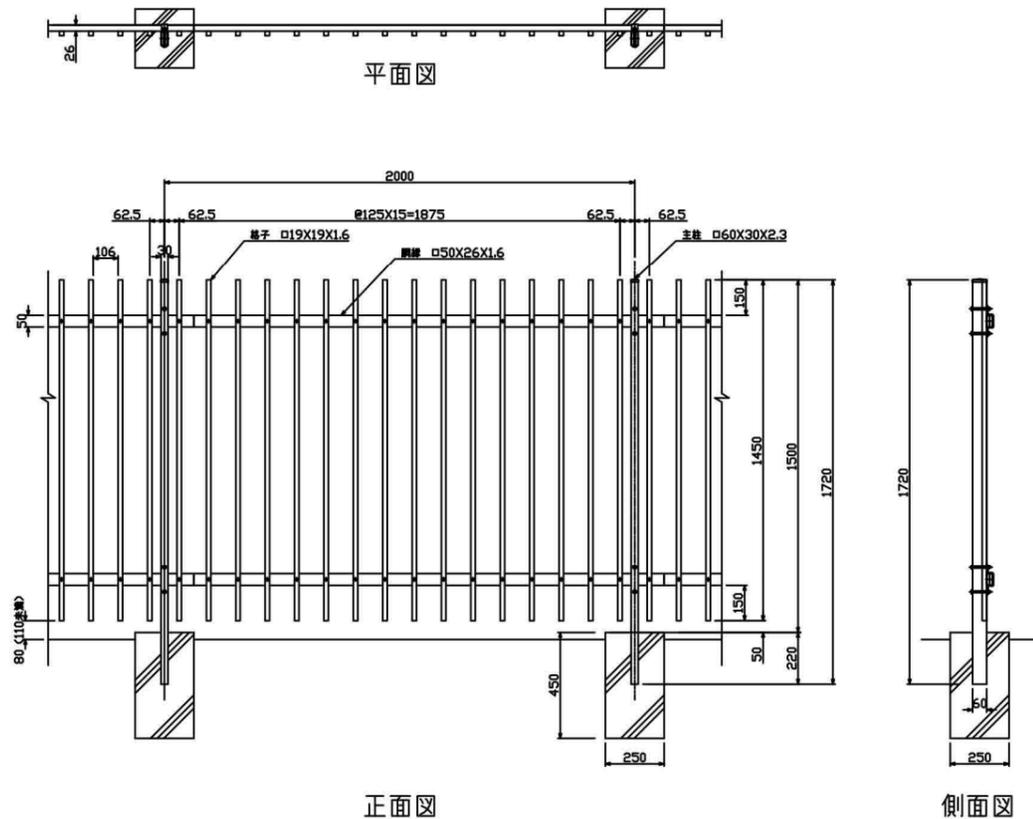
イメージパース



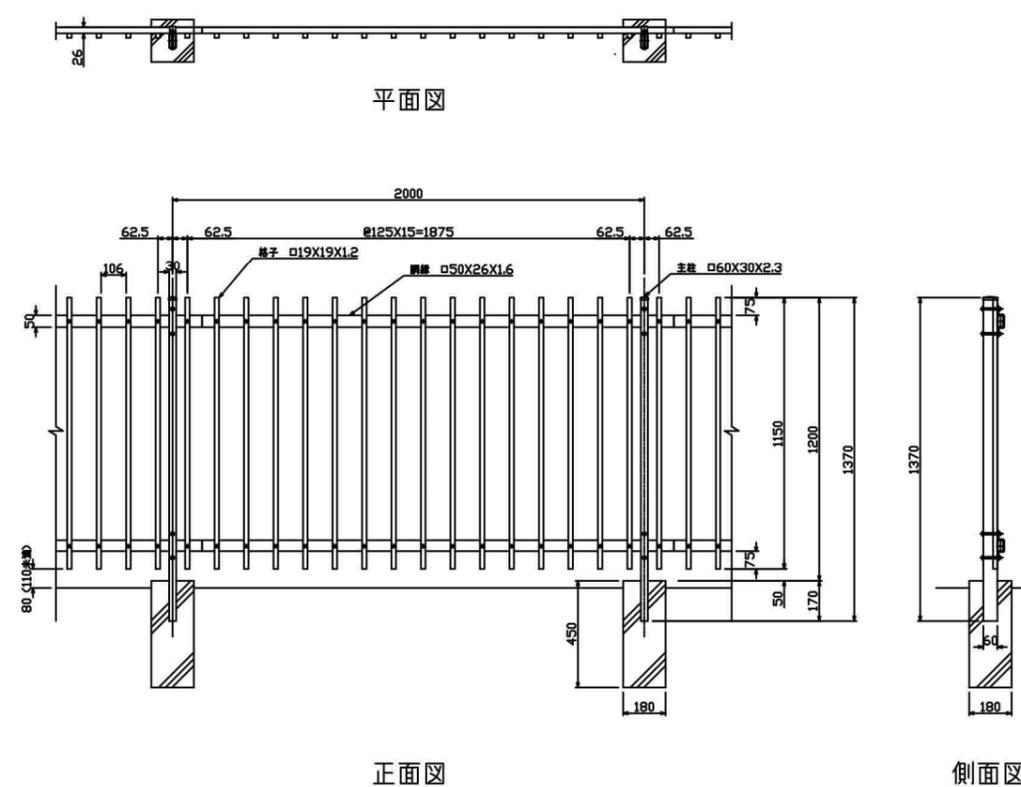
横断面図

図一 鋼製縦格子柵標準図

高さ 1,500mm



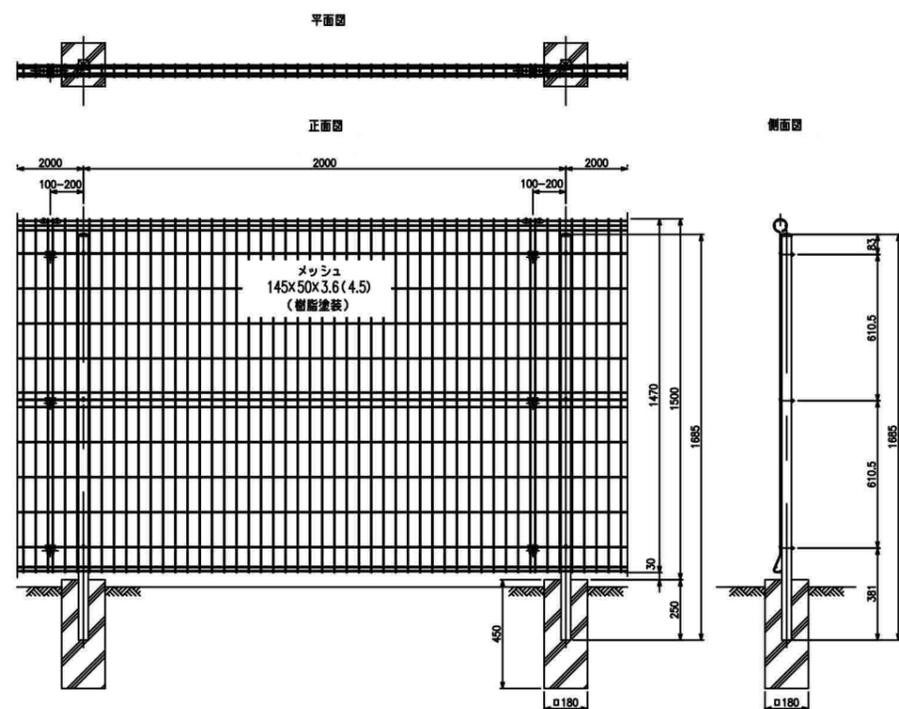
高さ 1,200mm



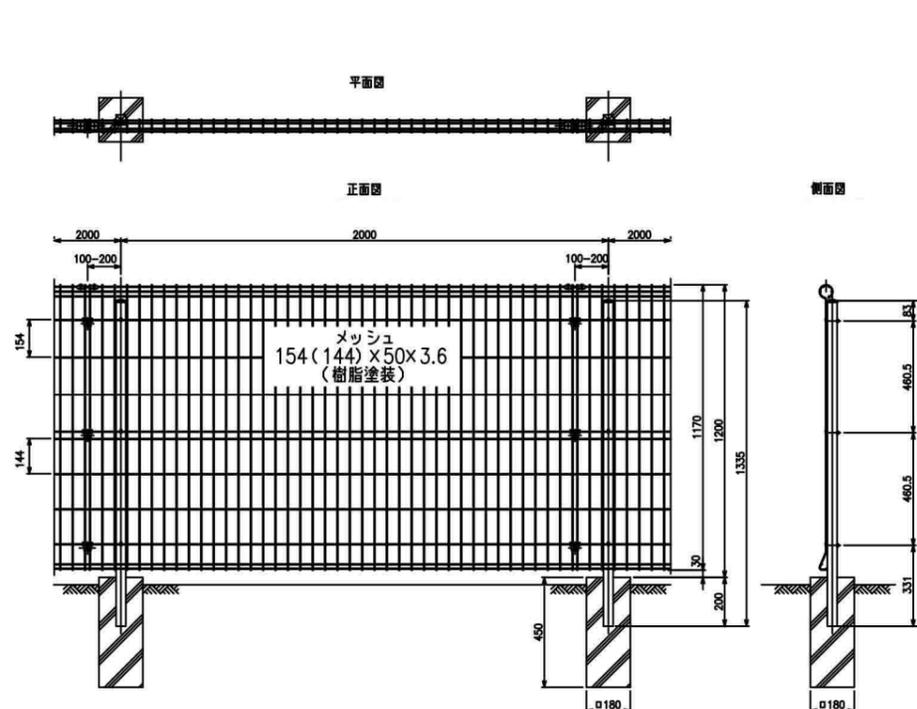
鋼製縦格子柵設置イメージ

図一 鋼製メッシュ柵標準図

高さ 1,500mm



高さ 1,200mm



鋼製メッシュ柵設置イメージ

手すり

実施設計における手すりの考え方は、「都市公園移動等円滑化整備基準(施行規則)ガイドライン」(平成24年3月,国土交通省)に沿って設定する。

<設置箇所>

基本的に段差が生じる場所(階段等)、勾配が5%を超える園路には手すりを設ける。

<手すりの仕様>

コスト削減、工期短縮を図るため、既製品を使用する。

材質

・一般的な製品として流通しているステンレス製かアルミ製とする。

構造

・2段手すり仕様(上段高さ85cm、下段高さ65cm程度)とする。

手すりの納まり

・トップビーム2段型の場合、上段使用時に支柱に足がぶつかる可能性があるため、移動円滑化の強化、景観性の向上を図るため、フロントビーム2段型とする。

手すり形状

- ・手すり形状は、規格品で一般的に流通しており、最も低コストとなる丸型とする。
- ・端部形状は、衣服の袖口の引っ掛かりによる転倒を防ぐ縦Uエンドとする。
- ・ただし、壁面に手すりを取り付ける場合には、端部を壁面へ巻きこんだ壁向エンドとする。

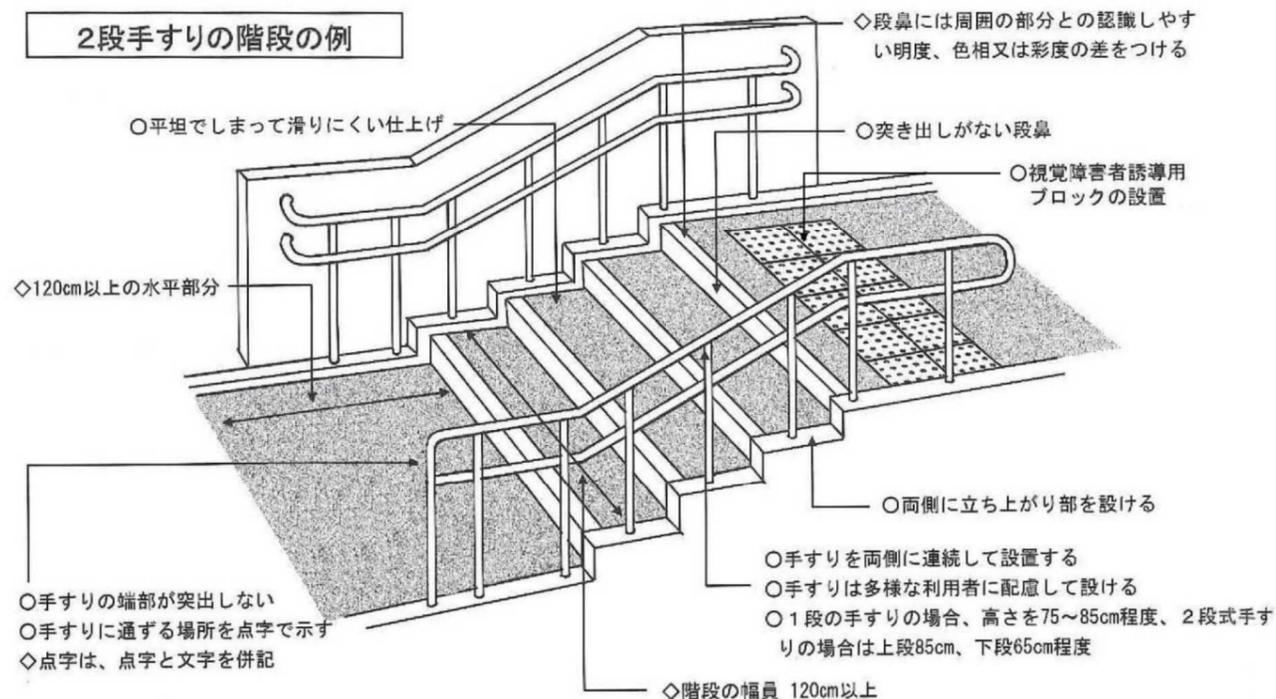
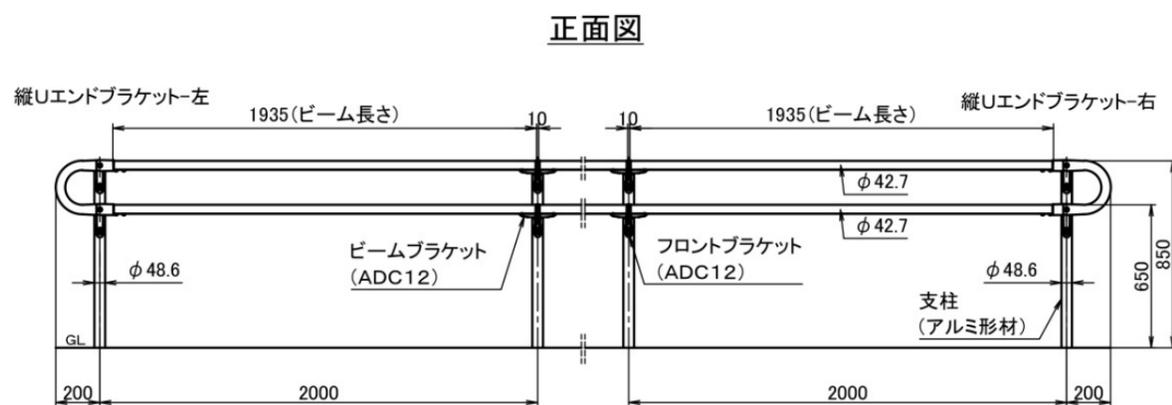
色

- ・「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」には、「アルミ製防護柵やステンレス製防護柵については、素材そのものの色彩を活かすことを基本とする。」と示されている。
- ・上記ガイドラインに基づき、素材そのものの色を活かしたシルバーとする。

<参考製品>

上記を踏まえ、フロントビーム2段型手すり(縦Uエンド)の参考図を以下に示す。

図ーフロントビーム2段型手すり標準図



手すり形状イメージ



手すり色イメージ

駐車場・管理用ゲート

実施設計における駐車場・管理用ゲートの考え方は、以下による。

- ・再整備後についても駐車料金の徴収はおこなわない。
- ・管理車両等進入口を適宜設置（中央エリアは新武道館北側）する。

<設置箇所>

- ・全ての駐車場や管理車両等進入口にゲートを設置する。

<ゲートの共通仕様>

- ・景観性、防犯性に優れ、設置スペースが比較的少なく、駐車場や園内へのバイクなどの侵入を防ぐことができるアルミ製引戸（スライド）とする。
- ・ただし、接続道路の縦断勾配等によりこれによるのが難しい場合は吊り下げ戸、観音開き戸を検討する。
- ・ゲートの形状及び色は、別途検討の柵、既存のフェンスとの調和を図り、縦格子の黒とする。
- ・高さは、車内から門扉を視認することができるよう、H=1.2mとする。
- ・駐車場ゲートのうち、管理用途によって感知式またはリモコン式などの電動システムを使い分けるものとする。

<駐車場ゲートの開閉方式>

- ・一般利用者用駐車場は手動式を原則とする。ただし南第1駐車場の自動ゲートは継続して利用する。
- ・管理者用駐車場は車から降りずに通過できるリモコン式もしくはカード式とする。

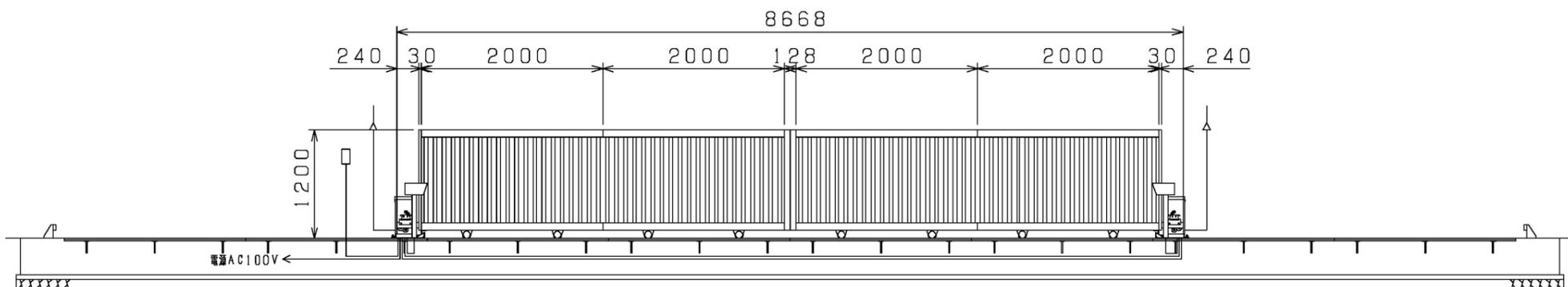
<管理用ゲートの考え方>

- ・日中は守衛を立てるなど、不要な車両進入防止を図ること。
- ・夜間等、施設利用終了後は適宜ゲートを閉め、車両の進入防止を図ること。

<参考製品>

上記を踏まえ、アルミ製引戸（スライド）の参考図を以下に示す。

図ーゲート標準図



駐車場ゲートイメージ